

平成 23 年度事業報告書

平成 23 年度の概況

平成 23 年 3 月の東日本大震災は、単に地震・津波の被害のみならず、原子力発電所事故及び放射性物質飛散による広範囲の生活再建の停滞が、復興の足取りを重いものにした。

特に年度前半は、電力不足に加え、外国の水害等による資材の供給の遅れも響き、経済復興が遅々として進まない側面も見られた。

そのような中で当協会は、課題であった一般社団法人への移行手続きを最優先に、現下の課題に対し着実な取り組みを進めた。

1. 一般社団法人への移行認可

平成 24 年 3 月 21 日に、内閣府より一般社団法人への移行認可書を受けた。これにより、24 年 4 月 1 日より理事の拡充も含め、新たな枠組みと態勢で進むこととなった。

2. 「膜・空間デザインコンペ」の実施

前年度に発表した「膜・空間デザインコンペ」は、6 月 6 日に提出を締切り、実応募作品数 113 点を得た。7 月 16 日には公開最終審査を行い、最優秀作品等を決定した。

小嶋一浩委員長（シーラカンス代表）の要請に応えた各応募者の大型模型によるプレゼンテーションは、膜空間のコンペの醍醐味を感じさせるものであった。コンペ及び最終審査の状況は CD に収め、各方面に配布して成果のアピールを行った。

3. 膜構造等告示への ETFE 技術基準の反映の取り纏め

ETFE 膜を建築材料として位置づけ、構造上の性能を明らかにして構造計算を可能とし、また防火安全上の位置づけを明確にすることとし、委員会での検討を重ね、関係告示に ETFE 膜及び同膜を使用するフィルム膜構造として位置づける案を作成した。

4. 膜構造・テント倉庫の更新判断基準の作成

膜構造メンテナンス研究会での検討結果を基に、膜体の更新時期を迎える膜構造建築物・テント倉庫の使用限界の判断基準の取り纏め作業を行った。特にテント倉庫については、適時の更新を促すため、外的状況から張替時期の判断が可能な簡便な判断基準のマニュアル化を図った。

5. 各事業の実施状況

(1) 品質及び技術水準の確保向上（技術向上事業）

- 1) 定期点検者講習会を平成23年7月7日に開催し、新規定期点検者3名、継続定期点検者13名、計16名が考査に合格し当協会ホームページに登録した。
- 2) 膜構造建築物維持保全計画指針に基づく定期点検の報告が延べ13件あり、維持保全専門委員会において報告内容を審査のうえ、報告済証を発行した。
- 3) 膜施工管理技術者講習会を10月6～7日に実施し、6名が考査に合格し当協会ホームページに登録した。

(2) 技術発展のための調査研究の推進（調査研究事業）

- 1) 「膜・空間デザインコンペ」を実施し、コンペ及び最終審査の状況を収録するとともに、原則として全ての提案を収録したCDを作成した。これを建築系の学科を持つ諸大学始め関係各方面に配布して成果のアピールを行うとともに、建築デザイン教育の資料としての活用を図った。（再掲）
- 2) 膜体の更新時期を迎える膜構造建築物・テント倉庫の使用限界の判断基準を取り纏めた。特にテント倉庫については、外的状況から張替時期の判断が可能な簡便な判断基準のマニュアル化を図った。
- 3) 膜材料の出荷状況並びにA～C種膜構造建築物及びテント倉庫の施工実績の定期アンケート調査を引き続き実施し、協会及び会員の事業戦略の参考に供した。
- 4) 技術発展の基盤を整備するため、「膜構造研究論文集2011」を刊行した。
 - ・掲載研究論文：「空気膜構造の作用風圧と構造強度に必要な内圧制御に関する基礎的研究」他 計8編
 - ・膜構造関連論文資料：国際シェル空間構造学会2011シンポジウムの報告ほか日本建築学会掲載論文等一覧
- 5) 2010年度膜構造研究論文賞を本間俊雄氏（鹿児島大学教授）に授与した。
 - ・受賞対象：「有限要素法による膜構造の解析と最適化に関する一連の研究」

(3) 普及情報事業の推進（技術情報事業）

- 1) 膜構造建築物等に関する技術の普及と定着を図るため、各種講習会等を開催した。
 - ① 5月27日定期総会後に記念講演会を実施し、約60名の参加を得た。

「膜構造の夢を追って」
講師：元竹中工務店技術研究所長 深尾康三 氏
 - ② 7月6日建築確認運用改善等説明会を開催し、計50名の参加を得た。
 - ③ 8月31日サマーセミナーを開催し、59名（事務局含む）の参加を得た。

テーマ1「被災と復興の間に」
 - 1-1「被災現地を廻って」
講師：ランドブレイン株式会社社長 吉武祐一 氏
 - 1-2「復興にぎわいマーケット」
当協会仮設テント市場緊急プロジェクトの紹介

テーマ2「屋内空間の安全性」
 - 2-1「屋内空間の被災例と安全確保の方策」
講師：東京大学生産技術研究所教授 川口健一 氏

2-2 「膜天井の計画事例」

当協会膜天井研究会による計画事例の紹介

- ④ 1 1 月 4 日膜構造施設見学会を開催し、31名の参加を得た。
- ・震災に見舞われた仙台市近郊の4施設を視察し、膜構造施設への地震による被害は僅少であることが確認された。そのほか仙台高専の櫻井宏教授より実体験を踏まえた講演を聴いた。
 - ・見学施設：シェルコム仙台、スポーツパークあすと長町、仙台空港駅プラットフォームホーム、仙台空港通路上屋

2) 各種媒体を活用し、情報の発信を強化した。

①協会ホームページのアップデートを行った。

②「膜協だより」を1回発行した。

3) 他団体と提携し、相互の理解・情報の交換に努め、業務に反映させた。

①一般社団法人日本建築センター等の建築関係団体との連携

②IFAI Japan 等との連絡協調

③日本建築行政会議等との情報交換

(4) 性能評価事業等の実施

1) 膜材料の性能評価を2件受託した。

2) 型式適合認定を47件実施した。

3) 中小企業基盤整備機構より調査を1件受託した。

6. 各種会議の実施状況

(1) 総会

1) 旧法人の第34期通常総会を平成23年5月27日に開催し、平成22年度事業報告及び決算報告を承認した。

2) 平成24年3月14日に旧法人の臨時総会を開催し、平成23年度補正予算を承認したほか、24年度事業計画及び収支予算（参考案）、一般社団法人への移行後の定款及び理事監事が確認された。

(2) 理事会

旧法人の理事会を4回開催した。主な議題は次のとおりである。

第109回理事会（平成23年5月18日）22年度決算を審議したほか、定期総会に向け議案が承認された。

第110回理事会（平成23年8月30日）「膜・空間デザインコンペ」、「復興にぎわいマーケット」等の報告を受けたほか、会員の異動が承認された。

第111回理事会（平成23年12月6日）23年度の収支見込みが報告されたほか、法人移行を踏まえ、会員規則の改正が承認された。

第112回理事会（平成24年3月14日）平成23年度補正予算案を総会に諮ることが承認されたほか、一般社団法人への移行後の定款及び理事監事が確認された。

(3) 企画運営委員会及びその傘下委員会

- ・企画運営委員会を4回開催し、一般社団法人への移行対応、会費収入確保の検討、デザインコンペ実施の支援、その他理事会付託案件について検討を行った。
- ・実務者委員会を3回開催し、デザインコンペ実施の詰め等、企画運営委員会の報告に向けた検討を行った。

(4) 品質委員会及びその傘下委員会

- ・維持保全専門委員会を2回開催し、定期点検報告書13件を審査したほか、定期点検者16名を認定・登録した。(再掲)
- ・加工工場登録申込新規2件更新7件を受け、全9件の登録を行った。
- ・膜施工管理技術者委員会を書面により開催し、考査結果の審査を行った。(再掲)

(5) 技術研究委員会及びその傘下委員会

- ・技術研究委員会を1回開催し、2010年度膜構造研究論文賞を審議した。

(6) 普及情報委員会

- ・普及情報委員会を4回開催し、視察会、講習会等の内容を検討し実施を図った。

(7) 性能評価委員会・技術審査委員会

- ・材料品質性能評価委員会を1回開催し、膜材料1件を性能評価した。(再掲)
- ・技術審査委員会を3回開催し継続案件の審査を行った。

(8) 型式適合認定委員会

- ・型式適合認定委員会を11回開催し、計47件を認定した。(再掲)

7. 会員の動向

第1種、第2種、第3種、第4種正会員の異動は次のとおりである。

会員の現況		(平成23年度末)	(前年度末からの変化)
第1種	正会員	16社	1会員減
第2種	正会員	18社	1会員増
第3種	正会員	93名	3会員減
第4種	正会員	6社	—
合	計	133会員	3会員減